

平成28年4月1日、市役所で辞令交付式が行われました。

辞令交付式には、新規採用職員24名のほか、昇任した職員等、約100名が参加。その際の市長あいさつを紹介します。



新規採用職員のみなさん、ご縁あって入庁いただき、ありがとうございます。また、昇任されたみなさんは、志を新たに頑張っていたきたいと思います。

今朝は、桜を見ようと、あちらこちら歩きながら登庁しました。立ち寄った広場では、女性30人くらいが、このオレンジベストを着て太極拳を楽しんでみえました。

年度始めにあたり、私からお願いしたいことがあります。

みなさんは、「あなたの職場はどこですか？」と尋ねられたら、どう答えますか？ バスや車で通勤して、さっそうと市役所に入って来られますが、自分の職場は、市役所の建物やそれぞれの所属先だと思っただけではないでしょうか？

みなさんの職場は、庁舎内やそれぞれの所属先ではなく、市域全体であり、長久手市に足を踏み入れた瞬間から職場だと肝に銘じてほしいと思います。そう考えると、庁舎内では、あいさつをするけれど、昼食で外に出たときに、道ですれ違った人とあいさつをしないというのは大間違いです。

長久手市では、あいさつができる人を採用し、また、昇任してもらいました。あいさつをするようお願いします。

あいさつをすることは、「おはようございます」「こんにちは」だけではありません。「大丈夫？」といった声掛けをすることが重要です。

上司のみなさんは、一人だけで残業している職員や、顔色が悪い職員がいたときは、「大丈夫か？」と声を掛けてください。市役所には事務分掌規程というのがあって、みなさんその規程に忠実だけれども、上司は事務分掌規程ではなく、職員に向き合ってほしいと思います。

今、日本中、孤独な人があふれています。家でも職場でも、まちでも、声をかけてもらえません。職員は、まちに出て、市民にあいさつ、声掛けをしてください。

なぜ、あいさつ、声掛けなのか。

小学校の卒業式でも話をしましたが、あいさつをする、声を掛けてもらうことで、「私は、ここに居ていいんだ」「この人は、私を認めてくれている」「私は必要とされている」と肯定感を感じることができるからです。そんな家族、職場、まちにしていきたいと考えています。

幸せの4原素は、「愛されること」「ほめられること」「人の役に立つこと」「人に必要とされること」だと言われています。役割があり、必要とされることで、人は幸せを感じることができるのです。

みなさんも、仕事をしていく中で、上手くいかない場面に遭遇すると、孤独を感じることもあるでしょう。そのようなときには、周りに相談をしてほしい。そのために、同僚や上司がいるのです。

今までの時代は、何もかも自分一人でできる人が評価されていましたが、これからは、市民のみなさんに相談して助けてもらう時代です。人口減少時代は、まち全体が家族になり、高齢者が若者世代を支え、地域力でまちづくりを行っていくことが必要です。ぜひ、私たちも職場全体が仲間になり、良いまちにいきましょう。